

スポーツの現場で働く「プロ」に直撃！

# スポーツ仕事人

木崎伸也・文・写真  
text & photographs by Shinya Kizaki  
師岡とおる・イラストレーション  
Illustration by more rock art all

子供たちが日々ボールを追いかけるサッカースクール。その運営を託されたのは、あの監督の娘だった！



連載

# 33



名前 **風間みさき**

プロフィール

## サッカースクール運営 トラウマトレーニング

年齢	27歳
勤続	5年
前職	なし
主な職場	練習場、事務所
座右の銘	ピンチはチャンス

職務内容

- 指導者やスタッフのサポート
- 新スクール立ち上げのための営業活動
- 会員管理

### 日

本サッカーを支えているのは、全国にあるサッカースクールだ。各スクールが特色を打ち出して競を削っている。茨城県つくば市を拠点に活動する「トラウマトレーニング」もそのひとつ。風間八宏（現川崎フロンターレ監督）が「おもしろいサッカーをやりたい」と、技術と発想にこだわって5年前に立ち上げた。

その代表を務めるのが、長女である風間みさきだ。高校ではハンドボールに打ち込み、大学ではサッカー部のマネージャーを経験。そして大学卒業後、父親のスクールを手伝うことになった。

「将来の仕事を考えてとき、バツと頭に浮かんだのはピッチでキラキラ輝いている人たちだったんです。最初は「トレーナーがいい」と思ったんですが、サッカー部のマネージャーをやったら色々アイデアを出したくなって、なら運営がいいかなと。そこで父のサッカースクールに携わることになりました」

トラウムの指導法は「ボールを止める・蹴る・運ぶ・外す」という基礎にこだわる。そのため、開校まもない時は「もつと特別な技を覚えてくれると思った」といった感想もあった。だが、みさきはそなたびに「発想を大切にしている」ことを丁寧に説明し、少しずつ理解者を増やしていった。2年目から責任

者になり、今では本戸校を含めて約2000人の子供たちが所属している。みさきはサッカーの専門学校で講師を務めるまでになった。「私はサッカー選手だったわけではないので、『自分にできるのかな？』という不安はありました。そんな時、父がこう言ったんです。「技術なんて関係ない。全員が真剣にボールを追いかけ、ゲーム中に走っていれば、おまえたちの取り組みは成功だ」と。全員ボールに向かっていたら、団子状態でもいいんだと。それが私の基準になっています」

みさきには、スクールをやるうえで原体験になった遊びがある。小学生の時、自宅前の神社で「兄弟姉妹4人」対「父」でミニゲームをやったのだ。10点決めればアイスを買ってもらえる。子供相手でも父は手を抜かず、4人が群がってもボールを取られない。父にとっても絶好のトレーニングだった。

「実はトラウマでも、5〜18歳が一括にプレイしています。大きい子が力に頼らずにボールをキープするには相当技術がいる。あの神社での遊びには、こんな意味があったんだと納得しています」

あれから時が経ち、妹のみつきはイギリスのポーツマス大学でスポーツ経営を学び、卒業後にトラウムの運営に加わった。弟の空希と空矢はJ2で活躍している。

「サッカーと同じで仕事も楽しみなさや、いい発想が出てこない。父から『つまらない』と言われるのが一番こたえます。それが私にとっての指導です」

今年は中学生年代のチーム「トラウマSV」を創設した。優秀なスタッフの指導によって地方大会で優勝するなど、育成界で注目も集まり始めた。

「将来は父の指導を受けた選手たちが、現役引退後に指導者として戻ってきて、大きな活躍する輪ができると嬉しい。私にとってスクールを手伝ってくれている学生は弟のような存在。どんな仕事をしていながら、兄弟を増やしていきたいです」

父親譲りのリーダーシップとともに、みさきはサッカーの道を歩いていく。

この仕事に就くには……

スタッフ全員が思いを共有することが大事。各スクールが掲げる理念や哲学をきちんと理解した上で、自身が共感できる職場を探そう。



（左）父であり、代表でもある風間八宏氏のもと、勉強の日々。（右）スクールに通う子供たちとのコミュニケーションも欠かせない

未来へ！

取材担当 キザキ氏  
※イメージです